

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 230

2025・3・26

咲き乱す桃の中より初桜

— 芭蕉 —

お彼岸過ぎから
暖かい日が続き
各地から
花の便りが届くようになりました
段葛の桜の満開が花吹雪が
楽しみな四月には
新年度もスタート
新しいこと
何か始めましょうか？

○ CONTENTS ○	PAGE
☆ 2024年度会員総会及び会員交流会報告	…1
☆ 図書館とバリアフリー3	…2
☆ 国立公文書館企画展「普選」と「婦選」に行ってきました	…3
☆ 横浜市図書館ビジョン学習会に参加して	…4
☆ 令和7年度鎌倉市市民活動センターの施設利用に関する変更について	
☆ 図友連報告	…5
☆ エディンバラ図書館見学記	佐久間美紀子 …6
☆ 松坡先生をめぐる人々23 松社同人 立花政樹 袴田潤一	…7
☆ 第26回かまくら市民活動フェスティバル「めざまめ」参加報告	…8
☆ 新しい読書会が始まります	
☆ 西鎌倉子育てサロン Palette おはなし会報告	…9
☆ 湘南邸園文化祭連絡協議会報告	
☆ 関根肇さんを偲んで	玉縄図書館長 佐藤敦子 …10
☆ 関根さん、ありがとうございました	
☆ ボラ協報告／銀幕情報／活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



2024 年度会員総会及び会員交流会報告

2024年度の会員総会が1月26日(日)10時～11時に福祉センター第3会議室において行われました。出席者17名、委任状31名、合計48名で前年末会員数100、会則13により会員5分の1以上で総会成立となりました。

最初に中央図書館の栗原館長にご挨拶をいただきました。

次に議案に移り、2024年度活動報告、会計報告、会計監査報告に続き、2025年度活動計画(案)、予算(案)が担当者よりそれぞれ報告され、承認されました。

世話人、代表、副代表、会計監査員の選出が行われ、今年度代表は水岡、副代表は和田、世話人は阿曾、阿部、黒瀬、齊木、杉崎、古矢、水岡、和田の8名、会計監査は山下、津村が推薦により承認されました。総会は滞りなく進み閉会しました。

引き続き11時～13時に同会場に於いて会員交流会が行われました。参加人数は15名。最初に各部の活動内容の説明があり、「おはなしひろくせん」の絵本と紙芝居の発表から始まりました。その後TOTOMOへの要望や質問など幅広く意見が飛び交い、時間を忘れるほどでした。この交流会での意見や要望の一部は例会で話し合うこととなりました。

久しぶりの会員交流会！短い時間ではありましたが、和やかな雰囲気の中で行われ、とても意義のあるものとなりました。

今後ともTOTOMOの活動にご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

会報音声版リスナーTOTOMO 会員木村康洋さんにインタビュー

本職の木村治療院院長はじめ、鎌倉市身体障害者福祉協会会長、鎌倉市福祉相談員、日本フロアバレーボール連盟会長他、様々な肩書を持ち多忙な木村さんにお話し、インタビューに協力していただきました。伺いたかったことは、昨年から国立国会図書館とサピエからダウンロードできるようになった TOTOMO 会報音声版をどのようにお聞きになっているのか？そして木村さんの読書 STYLE は？

最初に質問。TOTOMO に入会されたのはいつですか？入会のきっかけは？良く覚えていないようですが阿曾さんとお知り合いになってとのこと。TOTOMO 設立の年の 1998 年にリーフレットの点字版が作成され、翌年から会報音声版が発行されていることから木村さんはかなりの古参会員さんと思われる。

読書 STYLE については、高知システム開発のソフトウェアでサピエを利用していらっしゃいます。「新着完成情報」を確認し、必要な資料や気になる図書をダウンロードしておくのが朝のルーティーン。積読になることもありますが、後で探すのは大変なので分類してファイルに入れているそうです。流し読み・拾



パソコン操作中の木村さん

い読みをするものや急いで読みたいものは音声 DAISY で読み、記憶にとどめたいものや書き取っておきたいものは紙に打ち出されたものやブレイルメモで点字表示し利用するそうです。他に鎌倉朗読・録音奉仕会、鎌倉市点訳赤十字奉仕団、ライトセンター他から、市の発行物や雑誌、新聞小説などの音声版や点字版を送ってもらい利用しているそうです。CD で届く録音物はプレクストークでと、内容やお聞きになる場所などによって使い分けしているとのこと。聞く速度は 2~3 倍。私は等倍か 1.5 倍。2 倍だと聞くだけで精一杯で頭に入らないのです。これも熟練の技かも。サピエで「図書館とともだち」を検索するとリストの 5 つ目ぐらいに会報音声版がありました！選んで

再生(ダウンロードしないストリーミング再生も可能)していただくと、音声と同時に見出しなど文字で入力した情報も表示されました。感動！

最後に鎌倉市図書館に期待することをお聞きしました。

- ①昨年 11 月に館内点検の機会があったがハード面の設備のバリアフリー化。
- ②対面朗読の実施や協力者の育成。
- ③サピエからダウンロードして CD で貸出してもらえる仕組みの構築(鎌倉市身体障害者福祉協会のメンバーも、自分でダウンロードすることは難しいが CD なら利用できるという方が多数いらっしゃる)。

1 時間の予定が時間を延長し、いろいろ聞かせていただきました。木村さんありがとうございました。木村さんのお宅近くの横断歩道には音声とエスコートゾーンが先月設置されたそうです。さすが国に先駆けて障害者の情報取得に関する条例を制定した鎌倉市。図書館サービスも更なる充実を期待しています。

(松本陽子)



音声信号とエスコートゾーン
(視覚障害者が安全に渡れるよう
設置した突起形状の道路横断帯)
設置の富士塚小学校入口交差点

◇用語解説◇

- ・サピエ : 視覚障害者等、活字による読書が困難な人に点字図書や録音図書などのデータを提供するネットワークシステム。国立国会図書館のデータも利用できる。運営は全国視覚障害者情報提供施設協会。
- ・ブレイルメモ : 小型点字ディスプレイ。パソコンやスマホと接続して操作可能。
- ・プレクストーク : 視覚障害者用デジタル録音図書の規格である DAISY 図書再生専用機(機種によっては録音も可)



国立公文書館企画展「普選」と「婦選」に行ってきました

2月12日(水)、国立公文書館で開催していた企画展《「普選」と「婦選」―選挙権の拡大とその歴史―》(令和7年1月18日～2月24日)を観てきました。今年には1925(大正14)年に男子普通選挙が実現してから100年、1945(昭和20)年に女性参政権が認められてから80年、2015(平成27)年に選挙権年齢が18歳に引き下げられてから10年という節目の年です。

まずは事前に申し込んでおいた展示説明会に参加しました。解説して下さったのはこの企画展を担当した金子さん(現・国立公文書館 統括公文書専門官室上席公文書専門官)です。金子さんは元鎌倉国宝館学芸員で、TOTOMO

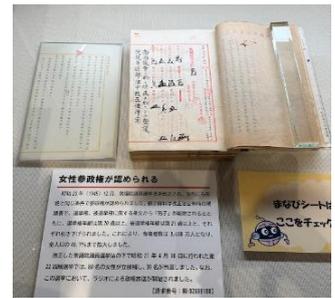
もお世話になりました。大勢の方が熱心に説明を聞いていましたが、大学生でしょうか、若い方たちの姿も目立ちました。その後いよいよ展示会場へ。そこには閣議書原本などがずらりと並べられていました。

衆議院議員選挙法が公布されたのは1889(明治22)年で大日本帝国憲法発布と同日のことでした。翌年に第1回衆議院議員選挙が行われますが、有権者は直接国税15円以上を納付する25歳以上の男子に限られました。当時の有権者は人口の1.1%に過ぎませんでした。その後この選挙法は数回改正され1925(大正14)年、ついに納税に関する規定が削除されて普通選挙が実現します。有権者数は全人口の20%となりました。一方、衆議院議員選挙法の改正(普通選挙法)と同年に治安維持法が公布されます。普通選挙法による労働者階級の政治的影響力の増大に備え、共産主義思想の波及を防ぐことを目的としたようです。

男子普通選挙に遅れること20年でようやく女性参政権が認められるわけですが、女性の政治参加や参政権を求める動きはそれ以前からありました。平塚らいてうらが女子の政治参加を禁じた治安警察法第5条の改正を求める請願を提出したのは1921(大正10)年、市川房枝らが女性の地方政治への参加を求める請願を提出したのは1929(昭和4)年のことです。その頃政府や自治体が行った意識調査では「我國特有ノ家族制度ヲ破壊スル」「我國ノ女子ハ男子ニ比シ意志弱ク其ノ他ノ能力ニ於テモ及ハサルコト遠シ」などの意見があったという記録が残っています。その程度の意識だったのか、と苦々しく感じたものの、昨今の選択的夫婦別姓の反対意見の中にも「家族制度を壊す」というものがあることを思うと、いつの時代も現状を変えたくない人たちの考え方は同じなのかしらとも思いました。多くの女性たちの努力もあり、男女平等の意識は次第に芽生えていたようですが、結局実現したのは終戦後、マッカーサーの意見にも後押しされてのことだったようです。1945(昭和20)年12月、衆議院議員選挙法が改正され、条文から「男子」が削除されました。有権者数は全人口の48.7%となりました。

この企画展は終了しましたが、[国立公文書館 HP の学習コンテンツ](#)のページではわかりやすく解説してくれていますのでお勧めです。

考えさせられることの多い展示でしたが、閣議書に記された花押にも目が惹かれました。花押というと公家か戦国武将が用いたものという印象を持っていたので、昭和になっても使われていたことに驚きました。ところが調べてみると現在も閣議書には使われているのですね。時代がかっているな、と感じる一方、手書き文化の面白さも感じます。見学土産に歴代内閣総理大臣(明治・大正)の花押が印刷されたクリアファイルを買って帰りました。(黒瀬)



女性参政権が認められた時の閣議書原本



アンケートは投票箱へ。

横浜市図書館ビジョン学習会に参加して

本年2月3日に行われた「横浜市図書館ビジョン 学習と交流のつどい」第6回に参加しました。主催は横浜市図書館ビジョンを考える市民連絡会です。松本直樹氏（慶応大学教授・図書館学）の講演と市民連絡会からの現状報告がなされ、参加者を交えての質疑・討論が行われました。

松本さんの講演では横浜市図書館の特徴と、それを踏まえての図書館ビジョンに対する見解が述べられました。まず、市の図書館の特徴は、人口規模に比して図書館数が圧倒的に少ない、専門職として採用された司書の数は全国一、それを反映して蔵書構成の質は高い、予算はピーク時の半分に下落したが回復傾向にあり、利用者数は減っても貸出点数は減っていない、特に予約点数は右肩上がり、レファレンス件数も増加傾向にある。ここから見えることは司書の力が大きいこととヘビーユーザーの比率が高いこと、今後はヘビーユーザーではない人への働きかけが重要ということでした。ビジョンについては、「10年から20年」と期間が長くアバウト、「新たな図書館像」として「つどい、憩う」「遊ぶ、体験する」「まちとつながる、交流」などがあるが、具体性に欠け、市民が本当に望んでいることなのか不明、他の施設との複合化を視野に入れているようだが、複合施設における「ついで利用」は低い（15%程度）というデータがあるとのことでした。

市民連絡会からは、昨年末に1万～2万㎡の大型図書館建設案が急浮上し、図書館間の物流拠点にするようだが、中央図書館との関係やどの場所につくるかは不明、区の図書館で老朽化しているものがあるので規模を大きくして建て替えるが「1区に1館」の基本は変わらない、全ての図書館に「居心地の良い空間」を新たな機能として加えたいというのが市の方針とのことでした。

参加しての感想は、「1区に1館」は変えないとされているが、各区の人口差は大きく（港北区の人口は36万人に対して西区は10万人）区民が受けるべきサービスの公平性に欠けているのではないかと、市民が本当に望んでいるのは「つどい、憩う」とか「居心地の良い空間」以前に、まず図書館が身近にあることであり、講師の言う「ヘビーユーザー以外の人への働きかけが大事」ということの意義もそこにあるのではないかと思います。

(和田)

令和7年度鎌倉市市民活動センターの施設利用に関する変更について

3月6日（木）15時からNPOセンター鎌倉で開催された、来年度からの同施設利用変更に関する説明会に出席しました。この説明会は大船センターで4回、鎌倉センターで2回開かれ、今回が最終回でした。

主な変更点は①オンラインによる施設予約システムの導入②大船センターの無人管理化の2つです。オンラインの導入はともかく、大船センターの無人化には大変驚きました。予約の段階でパスワードが発行され、それを知っている人以外はその時間に入室することができない、というのです。不測の事態が起きたときはどうなるのだろうか？そもそもこのような大きな変更について直前まで知らされず、意見を言う機会も与えられなかったことに不信感を持ちました。果たして説明会には会場に座りきれないほどの人が集まり、反対意見やなぜこのような事態になったのかの説明を求める声が次々に上がりました。

今回の変更は、鎌倉市市民活動センター運営会議が来年度からも指定管理者として選定されたわけですが、その際の仕様変更によるものです。つまり、市の提示した条件にこれらの事項が含まれていたため、今まで通りの運営はできないということです。ですが中間支援組織として市民活動を支えるということは、場所と機材の提供以上に、人と人をつなぐことや活動に関する相談業務が重要ではないでしょうか。「市民活動センター」という名前を持ちながら、市民不在で在り方が決められることに疑問を感じます。

(黒瀬)

図友連報告「これでいいのか図書館 会計年度任用職員の継続雇用を求める院内会議」を終えて

2月19日14時～17時半 於：衆議院第1議員会館大会議室

図書館友の会全国連絡会(図友連)を含む6団体が実行委員会を組み、廣森直子準教授(大阪信愛学院大学)による講演「司書職が専門性を発揮できる労働環境～我慢するか、やめるしか選択肢がない～」と、学校司書、司書3名による現状報告を軸に標記集会を実施しました。TOTOMOは、図書館運営の三要素と言われる人、資料、建物のうち、最も大切な要素は「人」と考えます。図友連は、活動の柱の一つに「司書職制度の確立」を掲げています。

「司書」は国家資格を有する専門的職員です。全国で図書館職員として働く人のうち、公立図書館の4割、学校図書館の9割が正規でなく、会計年度任用職員(公務員の非正規職員のこと)です。会計年度任用職員は任期が原則1年で、毎年度任用される制度になります。2年を限度に見直しする自治体もありますが、鎌倉では、5回任用して5年間働いたあとに改めて公募試験を行い、継続するかどうかを決めます。つまり、原則1年の任期である上、5年先の雇用も確定されない不安定な状況です。本制度が始まって以来、各地から「生活できない」とか「将来が不安」など悲鳴のような声があがっていましたが、昨年6月、人事院が各省庁に対して再度任用する上限回数(5回)の撤廃を通知し、これを受けて総務省も公募によらない再任用の限度を削除する処置をとりました。その後各地の自治体では上限回数(5回)の撤廃が大きく進んでいます。しかし、鎌倉ではまだ実施されていません。

石破総理は、第217回国会の施政方針で「…会計年度任用職員の在り方の見直し等により、地域の中の方々(注)が力を発揮できる環境を整備します。国の職員が、課題を抱える市町村に寄り添って、顔が見え、熱が伝わる伴走支援を行う仕組みを新たに始めます。」と演説されました。鎌倉でも、一刻も早く会計年度任用職員制度の見直し(注)がされるよう期待します。130年の歴史をもつ所蔵資料を有し、2つもの新しい図書館建築が企図されようと、そこに地域に密着した継続的な司書力がなければ、鎌倉図書館の魅力は半減、否大きく損なわれてしまうでしょう。図友連は、現在会計年度任用職員と呼ばれる有資格の職員さんの力がもっと活かされ高められるような「新たな仕組み」の構築に向けて、引き続き声をあげていきます。集会参加者は、衆・参議員15名(内秘書7名)、メディア5社、市民(含む地方議員)113名(内オンライン50名)、文科省・総務省職員各1名・首相補佐官1名でした。 ※YouTube配信 <https://www.youtube.com/watch?v=Q1qz01b4Ge4>

シンポジウム 「生成 AI 時代の活字の学びと図書館活用教育を考える」

デジタル教科書から紙の教科書に回帰する欧米先進国、それはなぜか (参加報告)

2月20日14時～16時 於：出版クラブビル4階会議室

満員となった会場で、上川陽子氏(活字文化議員連盟会長、衆議院議員)、佐藤学氏(東京大学名誉教授)、山口寿一氏(文字・活字文化推進機構理事長、読売新聞グループ本社代表取締役社長、図書館改革プロジェクト代表)をパネリストにシンポジウムが行われました。主催は、学校図書館整備推進会議図書館改革プロジェクト。後援は活字文化議員連盟と学校図書館議員連盟です。図友連も主催者である図書館改革プロジェクトに委員参加しており、遠方からの会員も含めて多数参加しました。個人的には生成 AI の問題性を危惧しながらも、きちんと学習しないまま過ぎていましたので大変参考になりました。そして、『鎌倉図書館百年史』(2011)の次の一節がよみがえりました。「樹木が、その高さを増せば増すほど、自らの根を長く太く大地に広げていくように、技術の革新は、それを創り出す人の知識や知恵をさらに多く求めるものである。」

講演内容や最後に採択されたアピール文(添付資料)とともに、当日配布された『学校図書館改革の2年間のあゆみ 2003-2004』(2025.2)も、今後広く共有したいと思います。(阿曾)

図友連の仲間である静岡図書館友の会の佐久間さんから、エディンバラの図書館レポートをご寄稿いただきました。外国の図書館ってどんな感じなのか興味津々！

今回から、いくつかの国の図書館や本回り事情にまつわるレポートを短期連載でお届けします。

エディンバラ図書館見学記

佐久間美紀子（静岡図書館友の会）



エディンバラ市中央図書館



「種の起源」初版本

スコットランドの首都だったエディンバラの街は世界遺産になっていて、中世の街並みがそのまま残っています。エディンバラ城から伸びる王宮通りは観光の中心でもあるので、世界中からの観光客でいっぱいでした。

エディンバラ市中央図書館はその王宮通りの真ん中あたりにあります。が、古い建物をそのまま使っているし、看板は出ていないし、うっかりすると見落としてしまいがちです。でもさすがに貫録ありました。

中はこんな風です。重厚な木製書架、書見台、アーチ型の入り口など、内装もたぶん昔のままなのでしょう。でも本はほとんどペーパーバックで新しめです。書架2本分のグラフィックノベルコーナーがあって、日本のマンガも20冊ばかりおいてありました。

1階が一般開架室、2階が参考室、というのは日本と同じようです。その2階の展示コーナーにあった「種の起源」初版。1250部印刷されてすぐ売れた、と説明にあります。そのほか、「ロビンソン・クルーソー」「指輪物語」の初版なんかも展示されていました。

他方では ebook やオーディオブックなどの貸出もや



図書館内（一部）

っています。また古い写真などを集めるオンラインスクラップを呼び掛けていました。「あなた自身のコレクションを作成し、本物のエディンバラの思い出を集めたオンライン・コミュニティ・アーカイブの構築に貢献しましょう」と。そのチラシには「お問い合わせはエディンバラ図書館デジタルチームまで」とありました。うらやましいことに図書館はデジタルチームを持っているようです。www.edinburghcollected.org

ミュージックライブラリは別棟に独立していました。古典オペラのDVDがずらりと並んでいたり、バンドネオンの実物が展示してあったり。楽譜のコレクションは壁一面を占めるほどで、その横に置いてある電子ピアノでは楽譜を見ながら演奏している人がいました。カウンターではバイオリンケースを背負った人が何か聞いていたりして、鑑賞者というより演奏者のための図書館のように思われました。

CD用の書架は引き出し式。この方が沢山収納できるでしょう。YAコーナーはこのミュージックライブラリ側にあって、いいアイデアだと思いました。

でも、今回一番驚いたのがこちら。写真ではわかりにくいのですが、生理ナプキンの無料配布スタンドです。日本だとトイレの隅にこっそり、ということになるのではないかと思います。一般開架書架の中央あたりにありました。

「Please Help Yourself」と書かれています。上段に吊るされているのは布製のポーチ。図書館ボランティアのお手製ではないでしょうか。

エディンバラ市中央図書館は、観光都市の真ん中でもちゃんと地域コミュニティメンバーのための図書館サービスをやっている、と思いました。



CD用書架



生理用ナプキン無料スタンド

松坡先生をめぐる人々 23 松社同人 立花政樹

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一



立花政樹
(福岡県立伝習館高等学校所蔵)

立花政樹は帝国大学文科大学英文学科の第一号卒業生として知られ、同学科第二号卒業生が夏目金之助(漱石)で、そのただ一人の先輩にあたります。漱石と立花政樹との親交は長く続き、漱石は日記や随筆で立花のことに言及しています。明治42(1909)年9月初旬から一か月半ほど満州・韓国を旅した漱石の紀行文『満韓ところどころ』に、漱石が大連に立花を訪ねた際のことが次のように記されています。

政樹公が大連の税関長になっていると聞いてちょっと驚いた。政樹公には十年前上海で出逢ったきりである。その時政樹公は、サー・ロバート・ハートの子分になって、やはりその税関に勤務していた。政樹公の大学を卒業したのは余より二年前で、二人共同し英文科の出身だから、職業違いであるにかかわらず、比較的縁が近いのである。政樹公の姓は立花と云って柳川藩だから、立派な御侍に違いない。

立花政樹は慶応元(1865)年、福岡柳川藩士の家に生まれました。藩主と同姓であることから漱石は「立派な御侍に違いない」と書いているのです。明治15(1882)年に柳川中学校を卒業、二年後に東京の共立^{きょうりゅう}学校に入学しています。松坡先生は明治15(1882)年1月から同校で英語・地理を教えていましたから、立花政樹は松坡先生の教え子だと言っていいでしょう。その後、立花は大学予備門を経て、明治21(1888)年に帝国大学文科大学英文学科に入学しました。文科大学入学者は僅か8名で、英文科は立花た

だ一人。明治24年に英文学科第一号として卒業したことは冒頭に紹介した通りです。翌年には旧藩主立花家からの要請で、旧藩校にルーツを持つ中学伝習館(現福岡県立伝習館高校)の館長となり、約5年にわたる在職中、多くの実績を残しています。その後、第二高等学校教授を経て、明治33(1900)年に清国の「海関」に採用され、上海海関に入ります。海関のトップにはイギリス人が就き、欧米・日本のスタッフが働いていました。明治39(1906)年時点で、欧米人約1,000人のスタッフに対し、日本人は僅か21名ですから、立花がいかに優秀だったかが窺われます。英国留学に赴く途中、漱石が上海の立花邸を訪ね、「家屋宏大」と日記(1900.9.13)に記しています。海関勤務は大正14(1925)年の退職まで25年間に及びました。

昭和9(1934)年から鎌倉山旭ヶ丘に住んだ立花政樹は、海関勤務時代から漢詩を詠んでいたこともあり、恩師松坡先生が主宰していた松社に参加します。号は西海^{さいかい}。松坡先生との親交は、先生の「明治節、用桃源杯一酌、陶然有作、以似立花西海、昨西海來見贈此杯(明治節、桃源杯を用いて一酌し、陶然として作有り。以て立花西海^{しめ}に似す。昨、西海來たり、此の杯を贈らる。)」と題された詩(『漢詩春秋』第20巻第12号1936.12)に示されています。先生が西海から贈られた「桃源杯」で酒を飲み、よい心持ちになって詠じた詩です。「桃源杯」なるものがどんなものかは不明。また、西海自身には「聽兒曼奏提琴(兒曼の提琴を奏するを聴く)」と題された漢詩があります(『松社同人集』1938所載)。「兒曼^{えるまん}」はエルマン、「提琴^{ていきん}」はヴァイオリン。青島膠海関税関長時代の大正10(1921)年にミッシャ・エルマンの中国公演を聴いての作で、漢詩としては異色の題材です。

第26回かまくら市民活動フェスティバル「めざまめ」参加報告

2月16日(日) 10時～16時 於：鎌倉市福祉センター



パネル展示「鎌倉の図書館のめざまめ」
「TOTOMOのめざまめ」(上)
おはなしひこうせんのおはなし会で取り上げた本たち(下)

今年度(2024年度)のNPOフェスティバルは、終了後に新たな気づきが生まれる場となることを願って、「めざまめ」というテーマで開催されました。開催日数は1日、会場は福祉センターと初めてのことが多く、スタッフの方々は準備にご苦労されたことと思います。紙面を借りて感謝申し上げます。

例年通りのパネル展示やバザーなどの他に、パラリンピックで知られるようになった「ボッチャ」の体験、楽器作りや竹細工などのワークショップ、SDGsを意識した映画会・講演会などがあり、参加すれば何かしら気づきのあるフェスティバルになっていました。

TOTOMOでは、「鎌倉の図書館のめざまめ」「TOTOMOのめざまめ」をパネルにして展示、数あるパネルの中でも内容デザインとも目を引くものでした。ひこうせんメンバーによるおはなし会でも、「めざまめ」をテーマに絵本を選んでプログラムを組みました。

毎年参加していると思うのですが、鎌倉のNPOセンターに登録している団体は300を超える数があるのに、NPOフェスティバルへは、パネル展示・ワークショップを合わせて40団体くらいの参加しかありません。新しく登録した団体や日頃よくセンターを利用している団体が参加してくれたら、もっとにぎやかで楽しい出会いがあるのではないのでしょうか。(杉崎)

新しい「読書会」が始まります

2月5日の例会に於いて、会員から新たな読書会の立ち上げについて提案があり、発案者・東さんと世話人7名で話し合いました。現在TOTOMOでは隔月で読書会を開催していますが、それに加えこの新しいタイプの読書会の企画もスタートさせることになりました。

以下は、2月から始まった「鎌倉から『世界』を読む会」第1回のご報告と今後のご案内です。



鎌倉から『世界』を読む会

戦後まもなく創刊され、今年で満80年を迎える岩波書店の総合月刊誌『世界』を読み、今の日本と世界をどう見るか話し合いませんか。各自、これぞと思う記事、論考を選び、コメントし合評しましょう。関連する本や映画なども紹介しあいましょう。長年の購読者も初めての人も新たな発見のある会をめざします。

このように呼びかけたチラシをたらば書房店内に掲示していただき、定期購読者宛に配達していただきました。

第1回(3月号)は4名の参加、12篇について合評しました。ひと

によって眼の付けどころが違い、まさに『世界』が多面的に見え、自分にもとづいて語る政治がおもしろくなりそうです。(東昌宏)

〈今後の予定〉

第2回(4月号):3月27日(木) 2時～4時

第3回(5月号):5月 1日(木) 2時～4時

第4回(6月号):6月 5日(木) 2時～4時

会場:、NPOセンター鎌倉

担当: 東 昌宏(電話・FAX 0467-46-5548)

西鎌倉子育てサロン Palette おはなし会報告

1月16日(木) 10:15~11:30 於:茶風

昨年9月に西鎌倉の子育てサロンの名称が、「ぼっけ」から「Palette(パレット)」に変わり、新たな気持ちでおはなし会を行いました。今回は、5ヶ月から1歳半までのお子さんとお母さん、7組の参加がありました。

新年にふさわしいプログラムになるよう、「だるまさん」にスポットライトをあててみました。だるまさんのペープサートや大型絵本『だるまさんが』を



だるまさんへっこぶっとたれた

小さな子どもたちも、よく見てくれました。後半は、春を感じる絵本やポエム、紙芝居を読みました。

読み聞かせが終わると主任児童委員の方が、お母さんたちに手袋を配り、うさぎの手袋人形の作り方を教えてくれました。うさぎの絵本も何冊か用意していましたので、『うさぎのワンピース』を追加で読みました。外は寒い日でしたが、手袋うさぎの登場もあり、あたたかで楽しいおはなし会となりました。

ひこうせんからは、石井・石原・大山・黒瀬・杉崎が参加しました。(杉崎)

♪プログラム♪

手遊び「はじまるよ」

大型絵本『たまごのあかちゃん』

ペープサート「だるまさん へっこぶっとたれた」

大型絵本『だるまさんが』

わらべうた「だるまさん ならめっこしましょ」

絵本『いちご』

ポエム「はながさいた」

わらべうた「ちょちちょちあわわ」

紙芝居『ぞうさんきかんしゃぼっぼっ』

わらべうた「さよならあんころもち」

湘南邸園文化祭連絡協議会参加報告

【第三回】 1月29日(水) 14:00~15:30 出席者:対面5名 オンライン11名

協議事項

- ・今年度イベントの参加団体は29、企画数は55。今年度の反省と今後の課題として、アンケート回答にQRコードを活用してはどうか、来場者の特性の分析、湘南邸園文化祭の知名度を上げる方法を考えるべき、地域の博物館、美術館と連携してイベントを開催してはどうか、などが提案されました。
- ・参加者、企業から概ね好評を得られたイベントでHPへのアクセスも増えてきているが資金面での問題は残る。改善策として、現在スポンサーが少ないので、県からスポンサー募集をしたり雑誌を広報媒体にする(CASA、ブルータス等)方法を考えてみては?という意見も出ました。

【第四回】 2月26日(水) 14:00~16:00 出席者:対面5名 オンライン11名 オブザーバー1名

協議事項

- ・決算報告(仮)及び来年度予算計画では、郵送代や印刷費の高騰、協賛広告の減少により協議会の繰越金が年々減少している点が問題となりました。
- ・湘南邸園文化祭20周年にあたり、記念企画(仮題「通観・神奈川県建築・都市の歴史」講演会と見学ツアー)が提案されました。一會期中通算8回神奈川県内の優れた建築群の歴史的な通観を研究者の解説と現地ツアーを行い、改めて県内の建築の豊かさを再認識する機会とする。鎌倉、小田原、箱根、明治の皇族御用邸、中・近世の住宅建築など。
- ・20周年企画の実行委員会を組織して実施したい。
- ・新しい担い手を探したい。大学研究室、教授、学生などを仲間に引き入れる
- ・新しいコンテンツの開発等も協議されました。(阿部〔オンライン参加〕)

関根肇さんを偲んで

鎌倉市玉縄図書館 館長 佐藤敦子



2017年協働事業 連続講座「玉縄の歴史」資料の提示をしながらお話くださる故・関根肇さん

関根肇さんが2024年12月15日に逝去されました。

関根さんは、玉縄歴史の会の会長を務められ、玉縄の歴史や文化の知恵袋として、とても頼りになる存在であり、いつも玉縄図書館をあたたかく支えてくださいました。

初めてお目にかかったのは、平成29年度に実施した市民協働事業「身近な図書館づくりプロジェクト」でのことでした。このプロジェクトは図書館とともだち・鎌倉と図書館の協働事業で、玉縄図書館では主に玉縄の歴史に焦点を当てた行事を実施しました。地域の団体と地域の図書館の連携を深めるという目的があったことから、関根さんをはじめ、玉縄歴史の会の皆さんには多大なご協力をいただきました。

パネル展示「玉縄の歴史と文化は深い」から始まり、秋には「連続講座 玉縄の歴史 全3回」と「歴史散策 玉縄の歴史を巡る会 全2回」と行事が満載の中で、関根さんには展示の資料提供、講座や歴史散策の講師と八面六臂のご活躍をいただきました。いずれも好評で、図書館のカウンターでも参加された方から「とてもよかった、また開催してほしい」という声を多くいただいたことを思い出します。

歴史散策では、玉縄城址諏訪壇など普段は入れない史跡を見学できたこともありがたいことでしたが、日頃歩いている道から見える玉縄首塚や通称・岡本トンネルなどの来歴を、実際にその場所で関根さんに語っていただいたことは、日常と地続きにある地域の歴史が実感できる貴重な体験となりました。

玉縄図書館の「玉縄に関する本のコーナー」には、『玉縄の歴史と文化』（玉縄歴史の会／発行）等、関根さんが執筆や編集に取り組みされた資料も複数あり、多くの方に活用されています。これらの資料に込められた「玉縄の歴史を未来に繋いでほしい」という関根さんの願いを、これからも図書館の使命としてしっかり受け継いでまいります。

関根さん、どうもありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。



玉縄図書館カウンター後方にある、玉縄の資料が集められた書架

関根さん、ありがとうございました

関根さんと初めてお目にかかったのは四半世紀前になります。鎌倉市中央図書館に寄贈された安田三郎氏撮影の写真やネガなどを整理するために「安田三郎氏寄贈写真整理の会」（後に「安田三郎写真保存の会」と改称）が立上り、整理に向けて試行錯誤が始まった頃でした。関根さんは作業を円滑に進めるために、膨大な量（2万点とか！）のネガをすべてご自宅の暗室でベタ紙焼きして下さったのでした。それも全くのボランティアで。中央図書館3階にある近代史資料の保存書庫には関根さんが尽力された資料がたくさん保管され、整理を経た写真の一部は図書館HPで公開されています。

また、玉縄図書館職員の非正規化が狙上に上がったときには、安良岡教育長（当時）と面談して、玉縄地域はじめ各地域に図書館があり、そこに司書職員がいることの大切さを直接訴えてくださったのでした。関根さんの歴史を学ぶ一途な姿勢と、郷土資料の調査・保存・提供を担う図書館への信頼とご貢献を、私たちは決して忘れません。関根さん、ありがとうございました。（阿曾）

ボランティア連絡協議会交流会報告

2月20日 於：福祉センター

2月20日(木) 福祉センター第1・2会議室で、ボラ協マルシェ(交流会)を開催しました。一昨年から、コロナ禍以前には1月に開催していた新年会に代えて、2月委員会を交流会としています。活動発表とお買い物、そして今年も珈琲野郎さんによるコーヒーサービスを楽しみました。

活動発表のひとつめは聞き書きボランティアの会「あしあと」さん。ご希望の方のお宅などに出向き、その方の語る人生を本にまとめる活動です。世界にひとつだけの本が出来上がり、大変喜ばれているとのことでした。

続いて「楽犬クラブ鎌倉」さん。メンバーが愛犬とともに施設等を訪問し、利用者さんたちと触れ合う活動をしています。わんちゃんたちを撫でる方、お話する方、少し離れて見ている方、と様々です。一方、活動を終えたわんちゃんたちは疲れて早く帰ろう、とロープをくわえて歩き出したり帰りの車で爆睡したり。そんな姿も写真で紹介いただき、笑ったり感心したりしました。

発表のあとはお買い物。毎年大人気の「はまなみ」さんのパン、「虹の子」さんのクッキー&パウンドケーキ、東北支援物産展「シェアハート」さんの野菜や乾物、「アイリス」さんの手作り雑貨、そしてミニバザーです。この日のお昼は「はまなみ」さんのパンと珈琲野郎さんのコーヒー、という方が多かったようです。(黒瀬)

※鎌倉はまなみ、虹の子作業所はいずれも鎌倉市内の福祉施設です。

かまくら銀幕上映会のお知らせ(主催：ドリーム・アーツ(03-5969-8081) 於：鎌倉芸術館小ホール

4/7 (月)『恋するプリテンダー』 4/24 (木)『フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン』

5/8 (木)『丘の上の本屋さん』

5/23 (金)『本を綴る』…上映後、篠原哲雄監督&千勝一凜(脚本・出演)の舞台挨拶があります。(詳細下記)

◎前売り券:1000円(当日券:1300円) ◎上映時間①11:00~ ②14:00~

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館(0467-48-5500)へお問い合わせください。

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます

◎5/23『本を綴る』篠原哲雄監督&千勝一凜(脚本・出演)の舞台挨拶

開場:12時30分 開映:13時(終映:14時50分) 舞台挨拶:15時頃から 入場料金1000円



TOTOMO活動日誌 (1/16~3/26)

1/16	西鎌倉子育てサロン Palette おはなし会	2/20	ボランティア連絡協議会交流会
1/16	おはなしひこうせん勉強会	2/26	湘南邸園文化祭連絡協議会オンライン参加
1/24	読書会	2/27	文化財保存活用支援団体研修会参加
1/26	会員総会・交流会	2/28	鎌倉から「世界」を読む会
1/29	湘南邸園文化祭連絡協議会オンライン参加	2/28・3/6	NPOセンター施設利用説明会出席
2/3	松本直樹氏講演会参加	3/2	大槻修滋氏のお話を聴く会参加
2/5	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会	3/6	Unileaf お手伝い
2/6	Unileaf お手伝い	3/6	NPOセンター登録団体懇話会出席
2/16	NPOフェスティバル	3/12	図書館協議会傍聴
2/19	これでいいのか図書館「会計年度任用職員の継続雇用を求める院内会議」出席	3/19	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会
2/20	シンポジウム「生成AI時代の活字の学びと図書館活用教育を考える」参加	2/13・3/13	ボランティア連絡協議会役員会出席
2/20	おはなしひこうせん勉強会	ロビー活動 随時	
		定例会 9回	
		(1/22, 29, 2/5, 12, 19, 26, 3/5, 19, 26)	

TOTOMO



COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ

暖かく過ごしやすい季節になりました。アウトドアでの読書も気持ちがよいもの。
大船フラワーセンターは、読書にもおすすめです。

鎌倉から『世界』を読む会

2月から、新しい読書会として総合月刊誌『世界』（岩波書店）を読む会が始まりました。
毎月8日に発売される『世界』を各自読んで、月末または翌月初めに読書会を開催する予定です。
詳細は、8ページのご案内を参照ください。会場はいずれも、NPOセンター鎌倉で行います。

第2回（4月号）：3月27日（木）14時～16時

第3回（5月号）：5月1日（木）14時～16時

第4回（6月号）：6月5日（木）14時～16時

お問い合わせは、東（TEL 0467-46-5548）まで。

おはなしひこうせん勉強会

日 時：3月27日（木）10時～12時 場 所：福祉センター

テーマ：「食べる」ご飯の時間が待ち遠しくなる、食についての様々な問題を考える、くいしんぼうの楽しいはなしなど、食べるをテーマにおすすめの絵本や紙芝居をご紹介します。

お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読書会

日 時：3月28日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉

テーマ本：ダイ・シーエ著『バルザックと小さな中国のお針子』（ハヤカワ epi 文庫）、

チョ・ナムジュ・松田青子他10名著『あなたのことが知りたくて 小説集 韓国・フェミニズム・日本』（河出文庫）皆さまのご参加お待ちしております。

お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時：4月2日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉

お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

☆図書館友の会全国連絡会

5月の総会&要請行動に向けて各プロジェクトが準備を進めています。文科省の「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」への傍聴参加は第3回を終え、HPでこれまでの配布資料や議事録を読むことができます。第4回は5月22日16時～の予定です。

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。



編集後記 * * * * *

☆1月は、子育てサロンと会員交流会、2月はNPOフェスティバルでおはなし会を行いました。読んでいた私達には充実した時間でしたが、参加された皆さまはいかがでしたか。(A.S)

☆2月下旬のシステム更新によって、鎌倉市の図書館ではスマホで貸し出しができるようになりました。早速、中央図書館で、バーコード表示（スマホ版図書館HPにログイン）、一冊借りてきました。新しいことはなんだか楽しい。そして便利。みなさま、ご存じでしたか？(M.S)

題字・巻末カット：小島寅雄

2025年3月26日発行

図書館とともだち・鎌倉（代表：水岡やす子） 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545

HP：<https://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

